

## 1 学校教育目標

- 自ら考え、自ら学ぶ人      ○ 感性あふれる、心豊かな人      ○ 心身を鍛え、たくましく生きる人

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

- |         |                              |                                    |
|---------|------------------------------|------------------------------------|
| ○学校像    | ○ 生徒一人一人の可能性を伸ばせる学校          | ○ 地域・保護者・生徒から信頼される学校               |
| ○児童・生徒像 | ○ 勤勉な生徒      ○ ルールを守り礼儀正しい生徒 | ○ 他者を思いやる人      ○ 夢を育む人            |
| ○教師像    | ○ 教職としての専門性を高める教師            | ○ 自他の人間性を高める教師      ○ 組織で教育を実践する教師 |

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### <学校の現状>

○生徒は何事も明るく前向きに捉え、自分たちの力で授業や特別活動、部活動等を充実させている。授業ではノーチャイムでの始業、終業、運動の祭典「桜魂祭」では応援団や実行委員を中心に、文化の祭典「桜友会」では合唱コンクール、舞台発表、作品展示と各方面で活躍する姿が見られた。宿泊行事や学年行事ではグループ活動を中心に主体的に取り組み成果を挙げている。その原動力は「さく中魂」に象徴される千寿桜堤中学校としての伝統とその改善による自信と誇り、本校独自の品位である。その様子から保護者・地域の温かい理解と協力、教育活動の充実につながっている。

### <成果>

○学校経営方針に「夢や希望をもち、自分を誇れる生徒の育成」を掲げ、学力向上アクションプランをはじめ具体的な取組を実践した。「一人一人の可能性を広げ伸ばす」を掲げ、持続可能な学力と人間性の育成を目指し多様性と包摂性のある中学校教育の具現化を図った。生徒たちは授業に真剣に取り組み、補充学習や家庭学習を充実させ、学校生活や行事では「一生懸命の精神」と自律心をもち、自分たちの力で様々な活動を充実させている。目標である「確かな学力の定着、自律心に基づいた自己指導能力と課題解決能力、豊かな人間性」の育成を生徒たちの主体的な取組により、成長を実感することができた。

- ・すべての教育活動を実施でき、それらの活動に対する保護者の皆様、地域の皆様の理解と協力、支援を得ることができた。
- ・小中連携では「言語活動を通じた表現力の育成」を重点に生徒たちの学習意欲や学習スキルの向上、教員の授業力の向上を図ることができた。

### <課題及び解決の方向性>

- 「誰一人取り残さない」というSDGsの目標を掲げている。生徒全員の充実した学校生活が課題である。生徒たちが抱える悩みや困り感を早期発見、早期解決しながら生徒全員が本校での学校生活を楽しく思い、意欲的に登校できるようにし、保護者の皆様、地域の皆様からの信頼を高めていく。
- ・学校の課題：学校経営方針の具現化を図るために教職員の組織的実行力を高め、校内の教育活動のみならず、小中連携事業やPTA活動、地域活動との連携を図る。また、配慮を要する生徒への支援体制の充実を図るとともに不登校未然防止が課題。令和7年度あだち防災教育プロジェクト実施。
- ・生徒の課題：自己指導能力や課題解決能力を向上させ、確かな学力を身に付けることや豊かな感性をさらに磨く意欲を高め、豊かな心の醸成が課題。
- ・教員の課題：個々の能力や実践、人間性を尊重し、学校としての学習指導力、生徒指導力、進路指導力などの組織的な教育力を高めることが課題。
- ・保護者・地域の課題：PTAの運営本部を中心にサポーター制度を充実させ、活動への参加機会を増やし、三位一体となった良い学校づくりが課題。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R：令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン（自ら考え、自ら学ぶ人）	○	○	○	○	○
2	全教育活動を通じた多様な感性と豊かな心の育成（感性あふれる、心豊かな人）			○		
3	自己指導能力の向上による課題解決能力の育成（心身を鍛え、たくましく生きる人）			○		

## 5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)			コメント・課題			達成度 ◎○△●
<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上アクションプランの実践により、各種学力調査等に対応できる確かな学力を定着させる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度、区学力調査通過率各学年・各教科令和6年度以上</li> </ul>	通過率(数字は学年/率単位%) 国語 1 85.1 2 88.1 3 68.9 数学 1 88.2 2 78.0 3 69.2 英語 1 90.1 2 79.3 3 66.2 平均正答率 国語 1 71.5 2 80.6 3 72.7 数学 1 76.7 2 68.3 3 62.4 英語 1 92.3 2 70.7 3 64.3 年度末到達度調査 国語 1 2 数学 1 2 英語 1 2			R6 通過率 国語 80.1 数学 78.6 英語 76.2 R7 通過率 国語 80.3 数学 79.1 英語 79.3 (R6 平均 78.3⇒R7 平均 79.9) R6 正答率 国語 73.0 数学 63.2 英語 70.5 R7 正答率 国語 75.0 数学 69.9 英語 74.1 (R6 平均 68.9⇒R7 平均 73.0)			◎
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 継続	授業の充実	全学年 全教科	通年	<p>(1) ICT 機器を積極的に活用し、個々の生徒に応じた学習形態を確保する。(個別学習、グループ学習や探究学習に取り組む)</p> <p>(2) 小中連携による「言語活動を通じた表現力の育成」を重点とした学習活動の創意工夫を図り、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。</p> <p>(3) 教員相互の授業観察を年3回以上行う。</p>	<p>生徒アンケート</p> <p>教員アンケート</p>	<p>生徒アンケート 90%以上</p> <p>教員アンケート 90%以上</p>	<p>(1) 生徒アンケート 96.7% 教員アンケート 87.0%</p> <p>(2) 生徒アンケート 91.3% 教員アンケート 87.0%</p> <p>(3) 生徒アンケート 87.0% 教員アンケート 87.0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT機器を積極的に活用できた。個別最適化の研究を進め、生徒に還元することが課題。</li> <li>・ 言語活動を通じた表現力の育成を重点とした授業改善により、考えを深めることができる授業となることが課題。</li> <li>・ 授業観察から生徒を理解し、教科の特性を活かした授業実践に改善することが課題。</li> </ul>	○
2 継続	学力向上と定着	生徒 各教科	通年 各教科 適宜	<p>(1) 適宜、学習コンテストや単元テストを行い、生徒の学力の定着度を測り、補充学習で定着を図る。(AIドリル等活用)</p> <p>(2) 生徒自身が定期考査等目標値を設定し達成するキャンペーンを実施(意欲や意識の向上)</p> <p>(3) 実技テストやレポート作成等を通して、各教科の目標とする資質・能力を育成する。</p>	<p>学習コンテスト、 単元テスト、 到達度調査 実技テスト 他</p>	<p>生徒全員が目標値をクリア</p>	<p>(1) 生徒アンケート 83.3% 教員アンケート 91.3%</p> <p>(2) 生徒アンケート 95.3% 教員アンケート 91.3% 目標達成キャンペーン 3科平均達成率 73.3% 5科平均達成率 76.3%</p> <p>(3) 生徒アンケート 95.7% 教員アンケート 95.7%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習コンテスト、単元テスト共に適宜実施し学力の定着を図ることができた。不合格者をゼロにすることが課題。</li> <li>・ 教員の意識は高まり、生徒からの評価も高く、意欲や意識の向上を図ることができた。</li> <li>・ 生徒の一層の充実を図るため、各教科の特性を活かした授業実践が課題。</li> </ul>	○

3 継続	英語力の向上	全学年 英語科 第2学年 英語科	毎週1回 給食時 2年生 校外学 習時	(1)英語検定で定着を図る (2)毎週イングリッシュデー昼の放送を英語で行う。 (3)2年生はTGGに参加し1日英語を活用した体験学習を行う。また、全学年で様々な体験学習機会を設定し、英語力の向上を図る。	生徒アンケート  教員アンケート	英語検定受検率前年度以上 生徒アンケート 85%以上 教員アンケート 85%以上	(1) R7:52.0% (R5:64.8% R6:58.9%) (2) 生徒アンケート 89.4% (3) 教員アンケート 91.3%	・英語検定の受験は学校行事と重なり受験率は下回ったが、1・2年生の受験率は向上した。 ・イングリッシュフライデー、校外学習(TGG)を実施。生徒の関心を高め、評価を向上させることが課題。	○
---------	--------	---------------------------	---------------------------------	--	------------------------	--	---	--	---

<b>重点的な取組事項－2</b>		全教育活動を通じた多様な感性と豊かな心の育成（感性あふれる、心豊かな人）					
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>		<b>実施結果</b>		<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
・教科や特別活動を通して多様な感性を磨き、夢や希望をもち、優しさや寛容、思いやりの心などを豊かにする		生徒評価肯定回答	90%以上	生徒アンケート	97.9%	・様々な教育活動で学んだことを活用し、感性を磨く活動を積み重ねる。今後も継続していくことが課題。	◎
		保護者評価肯定回答	90%以上	保護者アンケート	90.8%		
		教員評価肯定回答	90%以上	教員アンケート	91.3%		
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>							
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>		<b>実施結果</b>		<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
1 各教科で身に付けた知識や技能を活用した多様な感性や豊かな心の育成	生徒アンケート 肯定回答 90%以上 教員アンケート 肯定回答 90%以上 生徒意識調査 前年度以上	(1)各教科で身に付けた知識や技能を活用した作品の制作や発表の場を個人や集団で設け、多様な感性や豊かな心を育てる。 (2)朝読書や図書室の活用を推進する。学級文庫の活用。		(1) 生徒アンケート 97.4% 教員アンケート 91.3% (2) 生徒アンケート 92.5% 教員アンケート 95.7% 生徒意識調査 46.6%	・各教科の学びから、多様な感性や豊かな心の育成に生かすことが課題。 ・生徒意識調査は前年度を下回った。今後も継続し読書量を増やすことが課題。		○

2 道徳教育を通じたより良い生き方を考える <u>豊かな人間性の育成</u>	生徒アンケート 肯定回答 90% 教員アンケート 肯定回答 90%	(1)「考え、議論する」道徳の授業を推進する。 (2)すべての教育活動を通して、道徳的な態度やよりよい生き方を考える。	(1) 生徒アンケート 96.0% 教員アンケート 95.7% (2) 生徒アンケート 96.0% 教員アンケート 95.7%	・発問や振り返りを工夫することでよりよい生き方を考える道徳教育を実践できた。実施回数を増やし、さらなる育成が課題。	◎
3 授業や特別活動による <u>自己有用感の育成と社会貢献意識の向上、帰属意識やマナー等、相互の思いやりの心の育成</u>	生徒アンケート 肯定回答 90% 教員アンケート 肯定回答 90%	(1)生徒会活動や学級活動、行事で目標を掲げ達成する。 (2)社会貢献を意識した生徒会活動や学級活動、行事などを計画し、仲間と協力して実践する。 (3)特別活動、部活動などをおして、礼儀やマナーを身に付け、帰属意識を高める	(1) 生徒アンケート 95.3% 教員アンケート 95.7% (2) 生徒アンケート 96.2% 教員アンケート 91.3% (3) 生徒アンケート 96.2% 教員アンケート 91.3%	・生徒会活動、学級活動をおして自己有用感や思いやりの心を育てることができた。さらに充実した学校生活を実感できることが課題。 ・様々な活動を通して社会貢献意識の醸成、帰属意識の向上を図ることが課題。	◎

<b>重点的な取組事項－3</b>		自己指導能力の向上による課題解決能力の育成（心身を鍛え、たくましく生きる人）			
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>	
・様々な教育活動において自らの目標や課題を明確にし、自己指導能力や自律心を高め、規範意識と課題を解決する能力を育成する。	生徒評価肯定回答 90%以上 保護者評価肯定回答 90%以上 教員評価肯定回答 90%以上	生徒アンケート 95.3% 保護者アンケート 94.3% 教員アンケート 95.7%	・自らの目標や課題をもつことの意識は高まった。さらに全ての教育活動を充実させ、自分たちの課題を明確にしていくことが課題。	◎	
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>

1 教科や特別活動における目標達成や課題解決を通じた <u>自己指導能力の育成</u>	生徒アンケート 肯定回答 90%以上 教員アンケート 肯定回答 90%以上	(1)すべての教育活動に目標や課題をもつ。 (2)自分自身や仲間と協働しながら目標達成や課題解決を図り、自己指導能力を高める。 (3)教育相談機能を活かしたサポート体制を確保する。	(1) 生徒アンケート 95.3% 教員アンケート 95.7% (2) 生徒アンケート 96.3% 教員アンケート 91.3% (3) 生徒アンケート 95.7% 教員アンケート 95.7%	・常に個人や集団の目標をもち、様々な活動に取り組み、主体的な課題解決能力を高めた。継続、さらなる向上が課題。 ・個人や集団の支援体制を見える化し支援を継続することが課題。	◎
2 自ら考えて行動する <u>自律心</u> をもたせるとともに自ら厳しさを求め取り組む <u>自己指導能力と課題解決能力の育成</u>	生徒アンケート 肯定回答 90%以上 教員アンケート 肯定回答 90%以上	(1)学校生活に自ら課題をもち、その解決策を自らまたは仲間と協働的に考え解決する。 (2)何事にも自律心をもち主体的に解決する。 (3)厳しさや難しさを感じながらも意欲的に取り組む。	(1) 生徒アンケート 96.2% 教員アンケート 95.7% (2) 生徒アンケート 95.1% 教員アンケート 95.7% (3) 生徒アンケート 97.9% 教員アンケート 95.7%	・常に個人や集団の課題をもち、様々な活動に取り組み、自己指導力の育成とともに、課題を考え、解決しようとする意欲の向上が課題。	◎
3 行事や生徒会活動、学級活動を通じた <u>自己指導能力に基づいた課題解決能力の育成</u>	生徒アンケート 肯定回答 90%以上 教員アンケート 肯定回答 90%以上	(1)行事や生徒会活動、学級活動のルールなどを自分たちで決めて守る。 (2)行事や生徒会活動、学級活動の課題を自分たちで解決する。	(1) 生徒アンケート 97.62% 教員アンケート 95.7% (2) 生徒アンケート 96.03% 教員アンケート 95.7%	・常に個人や集団の課題をもち、様々な活動に取り組み、自己指導力に基づいた課題解決能力の向上が課題。さらなる意識向上が課題。	◎

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ア 区学力調査についての課題と対策

【成果】どの学年もすべての教科で正答率・通過率ともに区平均・全国平均を上回っており、学習の定着に向けた取り組みの成果が表れている。学習意識において、概ね区平均を上回っており、さらに、昨年度の課題である「学校での授業は分かる」は「+6.9ポイント」上回った。

【課題】国語は、「書くこと」や「説明的な文章を読むこと」に対して苦手意識をもつ生徒が一部見られた。数学は、「数と式」「データの活用」「関数」においては昨年度に比べると向上が見られた。一方で「図形」領域については、学習内容の定着が不十分である。英語は、「聞き取り」「文法」において、一部未定着の生徒が見られる。個々の生徒に応じて、定着を図っていくことが課題である。

【対策】教員の授業力を向上させるため、校内で互いに授業を観察し授業改善を行う。また、目標達成キャンペーンを継続し意欲を喚起し、「学校での授業は分かる」「勉強が好きだ」という生徒を増やしていく。国語は、語彙・文法・漢字などの学習場面で、AIドリルを活用し基礎学力の定着を図ると

ともに、適宜小テストを実施し知識の定着を図る。また、基礎力の定着習熟度に応じて発展的な課題に取り組ませることで「応用力」を付けさせる。数学は、「思考・判断・表現」の単元については、習熟度別少人数学級指導やA Iドリルを活用し個々に定着を図る。特に未定着の生徒が多い「図形」については、授業の中で習熟度に応じてグループで取り組む機会を作り定着を図る。英語は、スペリングコンテスト・単元テストなどの小テストを行い、「知識・技能」の定着を図る。また、ALT、TGG、留学生交流会などの体験的な授業を通して、表現力や思考力を身に付けさせるとともに、英語に対する興味・関心をもたせる。また、A Iドリルを活用し、個々の英語の基礎・基本の定着を図る。

- ・補習学習では、A Iドリルを活用し、基礎学力の定着を図るとともに各教科のコンテストや単元ごとの小テストを実施し定着を図る。
- ・個別指導では、授業中の指導や評価の活用、習熟度に合わせた課題への取組など、指導の個別化を通して確かな学力の定着を図る。

#### イ 全体的な今年度の成果と次年度に向けた課題及解決の方向性

<成果>学校経営方針に「夢や希望をもち、自分を誇れる生徒の育成」を掲げ、学力向上アクションプランをはじめ具体的な取組を実践した。「一人一人の可能性を広げ伸ばす」を掲げ、確かな学力と豊かな人間性の育成を目指し多様性と包摂性のある中学校教育の具現化を図った。生徒たちは授業に真剣に取り組む、補充学習や家庭学習を充実させ、学校生活や行事では「一生懸命の精神」と自律心をもち、自分たちの力で様々な活動を充実させている。目標である「確かな学力の定着、自律心に基づいた規範意識と課題解決能力、豊かな人間性」の育成を生徒たちの主体的な取組により成長を実感することができた。

<課題及び解決の方向性>「誰一人取り残さない」というSDGsの目標を掲げている。生徒全員の充実した学校生活が課題である。生徒たちが抱える悩みや困り感を早期発見、早期解決しながら生徒全員が本校での学校生活を楽しく思い、意欲的に生活し、保護者の皆様、地域の皆様からの信頼を高めていく。学習者中心の学びの推進、ウエルビーイングの向上、主体的に社会に参画する態度の育成を目指し、教育活動の充実を図る。

#### (2) 保護者や地域へのメッセージ

生徒たちは、伝統を継承し自分たちの「さく中魂」を発揮して、自信と誇り、そして品位をもって学校生活を過ごしている。意欲的に取り組む授業態度や定期考査に臨む姿勢、特別活動や部活動などに仲間と皆で協力しながら全力で取り組む姿は大変立派で千寿桜堤中学校をより良い学校へと成長させてくれたと確信している。来年度も生徒たちの活動や元気な姿を保護者の皆様、地域の皆様に数多くご覧いただき、安心していただくとともに、本校の教育活動に直接関わり、その場でご意見を頂戴するなど学校、生徒、保護者一体となってより良い学校を築く努力を続ける。

また、地域の行事等にも生徒たちを積極的に参加させ、学校とは違った経験をとおして成長することを期待している。

今後とも変わらぬご理解、ご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

#### (3) その他（学校教育活動全般について）

本校の教育活動全般については、授業や特別活動（学級活動、生徒会活動、行事等）を予定通り行うことができた。生徒、教職員が一体となって活動を推進することができた。そうした活動の成果は保護者の皆様、地域の皆様の協力があればこそその成果である。

また、お忙しい中、学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。アンケート結果を真摯に受け止め、検討を重ね、全員にとってより良い学校となるよう改善に努めてまいります。そうした学校の状況をご理解いただき、ご協力賜りましたことに心より感謝申し上げます。

これからも「全員の生徒が安心して学習や生活に取り組める学校」を目指し、今後も学習や生活の様子を考慮しながら、より良い学校へと発展させてまいります。また、生徒たちは、常に自分や仲間とともに考え判断し、行動できる力を身に付けながら当たり前前のことや周囲の仲間、支援してくれる方々への感謝の気持ちが育っています。これからも全ての教育活動に生徒たちが真剣にかつ楽しく取り組めるように教職員一同が努力し自校の教育力を高めてまいります。